

北九州市立大学 地域戦略研究所 NewsLetter

【発行】

公立大学法人

北九州市立大学 地域戦略研究所

〒802-8577 北九州市小倉南区北方 4-2-1

Tel: 093-964-4302

Fax: 093-964-4300

chiikiken@kitakyu-u.ac.jp

<http://www.kitakyu-u.ac.jp/iurps/>

韓国・仁川発展研究院との共同研究発表会を開催

北九州市立大学地域戦略研究所では、1999（平成 11）年に締結された韓国・仁川広域市の仁川発展研究院との友好交流協定に基づき、毎年国際交流・共同研究発表会を開催しており、2017（平成 29）年度は 12 月 1 日に北九州市での開催となりました。

これに先立ち、仁川発展研究院 イ・ジョンヨル院長ほか 4 名による学長表敬が行われ、その後会場を移して研究発表会が行われました。また、共同研究発表会に関連し、視察や意見交換を実施しました。

今年度の研究発表は「ウォーターフロント地区におけるまちづくり」を共通テーマとして、4 名の研究者が発表を行いました。

【仁川発展研究院】

- ・仁川海洋親水都市造成基本構想について（ギ・ユンファン 研究企画本部研究委員）
- ・仁川開港場の価値上昇プロジェクト（ユン・ハヨン 都市基盤研究室専任研究員）

【北九州市立大学】

- ・門司港レトロ地区の歩みと展望（内田 晃 地域戦略研究所教授・副所長）
- ・北九州市と下関市の連携による日本遺産認定事業の展開と観光振興（南 博 地域戦略研究所教授）



「全国カレッジフットパスフォーラム in 北九州」を開催

平成 29 年度学長選考型研究費の採択課題「学生による地域創生モデルの汎用的実践」（代表者：内田教授）の研究の一環として、2017 年 11 月 10 日（金）に「全国カレッジフットパスフォーラム in 北九州」を開催しました。

本フォーラムは、フットパス、まちあるき、サイクリングなど、着地型観光の分野で地域に根差した活動をしている全国の高校生・大学生の発表の場を提供することを目的としたもので、全国から約 20 名の教職員、約 110 名の学生が集まりました。

まず本学・学長特別顧問の近藤倫明先生による「北九州市立大学の地域貢献」と題した基調講演では、公立大学法人化以後の地域貢献への取り組みやまなびと ESD ステーションを核とした持続可能な発展のための教育活動などについて話題提供を頂きました。その後、3 分科会に分かれて、全国から集まった 21 題の発表があり、学生相互の活発な議論が展開されました。最後は各分科会でコーディネーターを務めた 3 名が、学生だからこそ実現できる地域創生手法や学生が地域に関わる上での役割などについて議論をまとめました。

来年度は熊本大学と佐賀大学による共催で本フォーラムが開催されます。

【担当：内田教授】



地域戦略研究所および所属教員の最近の主な活動記録

【2017年10月～12月】

フィンランド・オウル市から研究者が産学官連携の調査に来訪

〔吉村英俊教授〕

12月12日、フィンランドのオウル大学とVTT技術研究センターの研究者の方が、北九州地域の学術研究機関の集積状況や産学官民連携の取り組み状況を調査にきました。オウル市では、環境エネルギー分野のさまざまな先進的な社会実験が行なわれており、エコタウンを視察した後、FAISで環境科学研究所の先生を交えて意見交換を行いました。



エコタウンセンターにて（左：Jussi 研究員 @VTT 技術研究センター、中：吉村教授、右：Pekka センター長@オウル大学）

日本遺産「関門“ノスタルジック”海峡」認定記念イベントを東京で開催 〔南博教授〕

文化庁は2017年4月に北九州市・下関市共同提案の「関門“ノスタルジック”海峡～時の停車場、近代化の記憶」を日本遺産に認定しました。この認定を機に関門連携・官民協働で「関門海峡日本遺産協議会」（会長：南教授）を立ち上げ、構成文化財等を活用した観光振興、地域活性化に取り組んでいます。

11月25日（土）には、東京都千代田区で開催された「KitaQ フェス in TOKYO」（北九州市など主催）においてイベント「関門“ノスタルジック”海峡 青春グラフィティ」を主催し、須藤元気さん、津田大介さん、波田陽区さんらをゲストに、講談を交えて日本遺産構成文化財の魅力等を発信しました。このイベントは唐戸市場（下関市）、門司港にサテライト会場を置き、東京の会場と結んで多元生中継を実施し、400人超の方々に来場いただきました。



開会挨拶をする南教授

その他の主な活動記録

※各項目ごとに担当教員等（〔 〕表記）を日付順に列挙

■地域課題に関する研究、共同研究、受託研究での調査等（抜粋）

- 経営指導及びJICA事業にかかる協議（10/13～18：ベトナム・ハイフォン、カンボジア・プノンペン）〔吉村〕
- 関門地域共同研究会 平成29年度第3回運営委員会（10月：書面会議）
- BRTに関する現地調査（12/7～9：中国・広州市）〔内田〕
- 仁川発展研究院・北九州市立大学 共同研究発表会（12/1：北九州市立大学）※前後日に視察等も実施
- JICA事業にかかるキックオフ及び協議（12/3～8：カンボジア・プノンペン）〔吉村〕
- フィンランド オウル大学・VTT技術研究センター視察対応（12/12）〔吉村〕

■講演等

- エコテクノ「北九州におけるベンチャー企業の創出」シンポジウム（10/12）〔吉村〕
- JICA九州草の根技術協力事業実施団体会議（11/9）〔吉村〕
- 全国カレッジフットパスフォーラム in 北九州（11/10：北九州市立大学）〔内田〕
- 北九州商工会議所流通委員会卓話会（11/28：湖月堂本店）〔内田〕
- 日本遺産認定記念イベント「関門“ノスタルジック”海峡 青春グラフィティ」（11/25：アーツ千代田 3331）〔南〕
- 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻特別講義（12/15：東北大学）〔内田〕
- 福島県リノベーションまちづくり専門家派遣事業に係る講演（11/19,12/10：会津若松市）〔片岡〕

■国・地方自治体・経済界等の各種審議会・委員会（開催された主なものを抜粋）

- | | |
|----------------------------|------------------------------------|
| ○北九州市都市計画審議会（会長）〔柳井〕 | ○直方市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会（委員長）〔内田〕 |
| ○宮若市総合計画審議会（会長）〔内田〕 | ○水巻町総合計画審議会（会長）〔内田〕 |
| ○中間市地域公共交通協議会（委員）〔内田〕 | ○大野城市バリアフリー基本構想改正協議会（会長）〔内田〕 |
| ○久山町行政評価外部評価委員会（委員長）〔内田〕 | ○芦屋町都市計画審議会（会長）〔内田〕 |
| ○芦屋港活性化委員会（委員長）〔内田〕 | ○福岡県行政改革審議会〔南〕 |
| ○大野城市総合計画審議会（副会長）〔南〕 | ○直方市行政改革推進委員会（会長）〔南〕 |
| ○九州経済連合会行財政委員会〔南〕 | ○北九州市大規模国際大会等誘致委員会検討会議〔南〕 |
| ○関門海峡日本遺産協議会 総会・各WG（会長）〔南〕 | ○北九州 ePORT 構想 2.0 フェーズII 検討委員会〔吉村〕 |

(前ページからの続き)

■報道

- 西日本新聞、2017年11月3日、北九州面「進め！ギラヴァンツ サポーター、来季へ叱咤激励」 [南]
- FM KITAQ、2017年11月18日、「サタデーアベニュー」(11:00~12:00) [南]
- 福島民報、2017年11月23日、「空き店舗 利活用学 北九州の事例紹介」 [片岡]
- 毎日新聞、2017年12月4日、夕刊社会面「J3ギラヴァンツ北九州 集客低迷 本拠地活用模索」 [南]
- 毎日新聞、2017年12月15日、地域面「スペースワールド 閉園まで17日 「継続が地域貢献」 心に」 [柳井]
- TNCテレビ西日本、2017年12月15日、「ももち浜ストア夕方版」(16:50~19:00) 「福岡 vs 北九州 2017年ヒット番付」 [南]
- 西日本新聞、2017年12月23日、北九州面「回顧北九州・京築2017<2> 九州豪雨」 [南]



片岡准教授掲載紙面 (冒頭部のみ抜粋)

■イベント告知

- 「帰ってきたリノベーションスクール@北九州」2018年3月1日(木) ~4日(日) [片岡]

地域科目「地域の社会と経済」開講中 [COC+事業]

本ニューズレターでこれまで何度かお伝えしていますが、北九州市立大学では、教養教育科目として新たに“地域科目”を2016年度から開講しています。この科目は、学生自身の学習・生活の地である北九州・下関地域の文化、歴史、経済、産業等に関する授業で構成し、学生自らがこの地の魅力を知り、キャリア形成について考えることを目的としています。この地域科目は6つの授業で構成し、いずれも地域戦略研究所が提供する授業です。

今号では2学期に開講中の「地域の社会と経済」(担当：柳特任講師)の概要を紹介します。

■地域科目「地域の社会と経済」について

[目的] 地域活性化や地域再生が日本における重要なキーワードになっています。学生には「地元」という言葉はどのように響くのでしょうか。1つの地域に愛情を持って、真剣に学習してみることは、自分の地元を考える良いきっかけとなると考えます。この授業は、北九州・下関地域の成長から現状に至るまでの時代の流れを学習した上で、時代と共に変遷して来た社会的・経済的特性を様々な観点から学ぶことを通じ、地域の課題を発見し、何をすべきか、自らの意思で考えることを目指しています。

[内容] 各トピックに関して、地元企業関係者や地域で活動しておられる方々など、現場での経験や造詣が深い方々をゲストスピーカとして招き、北九州・下関地域出身者、地域外出身の双方にとって学びとなるお話をいただいています。講義は大きく地域の歴史・産業発展・人口変化・政策などの基本事項を学ぶ「地域の社会・経済の変化」分野、現在の地域経済を支えている地元企業の強みや国内外に向けた戦略、地域貢献などを学ぶ「地域の企業」分野、北九州・下関地域のビジョンと活性化に向けた事例や知識を学ぶ「地域の未来について」分野という3つの内容で構成しています。授業計画は次のようになっています。

2017年度「地域の社会と経済」授業計画

回	テーマ	ゲスト講師の所属組織等
第1回	ガイダンス	※担当教員(地域戦略研究所 柳特任講師)が実施
第2回	北九州・下関地域の社会的・経済的特徴	※担当教員(地域戦略研究所 柳特任講師)が実施
第3回	北九州の産業・社会	北九州市立大学名誉教授 神山和久氏
第4回	北九州市政と市民	北九州市立大学名誉教授 神山和久氏
第5回	下関の産業・社会	山口経済研究所
第6回	下関の都市戦略	山口経済研究所
第7回	地域の企業①	極東ファディ(株)
第8回	地域の企業②	北九州市立大学キャリアセンター
第9回	地域の企業③	(株)ハローデイ
第10回	地域の企業④	クラウン製パン(株)
第11回	地域資源のブランド化	北九州経済研究所
第12回	地方分権と地域社会—地域に関して何を悩むべきか。	※担当教員(地域戦略研究所 柳特任講師)が実施
第13回	地域活性化・再生の世界の多様な動きと地域の未来	リサーチャー 江上賢一郎氏
第14回	地域経済社会における日本銀行の役割	日本銀行北九州支店
第15回	本講義のまとめと期末試験の説明	※担当教員(地域戦略研究所 柳特任講師)が実施

カンボジアの産業人材を育成します！

JICA 草の根技術協力事業を活用 [吉村英俊教授]

カンボジアはインドシナ半島の中央に位置する大いなる可能性を秘めた国です。しかしその主要産業は、未だ縫製業や靴製造などの労働集約型産業です。多くの作業者は専門技術を必要としない組立作業や機械を使った単純作業などに従事しており、低賃金労働を余儀なくされています。住民の生活を豊かにするためには、裾野産業を育成し、産業の高度化や多様化を図る必要があります。そのためには作業者の技能を高めるとともに、生産ラインの管理や改善ができる現場管理者を早急に育成しなければなりません。

一方、人材育成機関の現状をみると、現場管理者の育成を目指している職業訓練大学では、自動車や空調機器の修理などの授業が主流であり、また技能工を育成する工業高校においては、現在整備している段階であるなど、必要とされる人材育成の環境が整備されているとはいえません。

そこで JICA の草の根技術協力事業を活用して、2020年12月までの3年をかけて、これら産業人材を育成するしくみを構築することにしました。具体的には、プノンペン^(注2)の職業訓練大学である Industrial Technical Institute (以下 ITI) と工業高校である Chum Pou Vaon (以下 CPV) をモデル校として、「工場で働くための基本」の授業を行なえる教員を北九州市立大学で育成し、これら教員が在校生及び地元製造業の経営幹部や工場管理者に授業を継続して実施するしくみを構築し定着させるものです。また授業で使用したテキストを製本して、全国の職業訓練大学及び工業高校に配布することも考えています。

ここで「工場で働くための基本」とは、チームワークやホウレンソウ、規律遵守など、組織で働くための基本である「ソフトスキル」と、生産管理や品質管理、5Sなど、管理技術にもとづいた「ものづくりの基本」からなり、現地の日系企業でもっとも必要とされている分野です。

このたび12月4日にプノンペンで事業関係者^(注3)が集い、キックオフ・ミーティングを開催し、事業の成功を誓いました。

なお今回の産業人材の育成は第一ステップであり、次は中小企業支援センターを設立するなど、産業育成基盤の確立や裾野産業の育成を図り、産業の多様化と高度化を進め、カンボジアを ASEAN の成長を牽引する核となる国へと導いていきたいと思えます。

プロジェクトメンバー

吉村 英俊	北九州市立大学 地域戦略研究所 教授
日高裕見子	グローバルキャリア 代表
辻井 洋行	北九州市立大学 基盤教育センター 准教授
石川 敬之	北九州市立大学 地域共生教育センター 准教授
木村 潤	北九州市立大学 キャリアセンター 部長
今泉 健	北九州市立大学 地域・研究支援課 係長

注1 <http://krorma.com/site/wp-content/uploads/2014/03/economist31.jpg>

注2 北九州市とプノンペン市は2016年4月に姉妹都市になりました。

注3 日本側：北九州市立大学、JICA カンボジア
カンボジア側：労働省、教育省、ITI、CPV



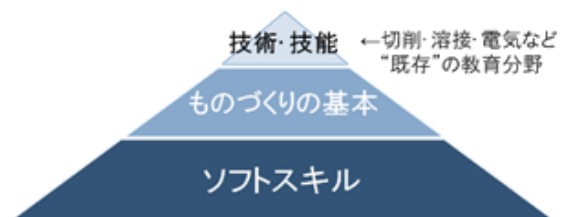
縫製工場の様子 (注1)



空調機器の修理キット (ITI)



CPV 工業高校の全景



「工場で働くための基本」の位置づけ



キックオフ・ミーティング出席者